

# Y a 2008 No.40



これは世につたえておきたい  
かたっておきたい  
わが胸の底から真実のおもい  
人生幾山河のめぐりあい  
あの日の風やひかり そして空のひとひら  
哀歎のかがり火に生きた幾年月の路  
「自分史図書館」は その証言館です。



螢火	大塚 キクエ	何どきも髪のみだれをみせざりし母の形見の古き黄楊櫛 螢火の指のすき間にこぼるるを苦しかりと孫は放てり
私の居場所	酒井 寿子	気がかりのことばを胸にこころがして謎解くように一夜過しぬ 石燈籠の中に二匹の猫の子の重なり合いて雨やどりする
梵鐘	田中 淳郎	氣をしめて撞く梵鐘のひびく音は余韻を遠く伝えつつゆく ブームより早や還暦の人となる団塊世代の退職しきり
ふるさと	堤 聖子	山の端に夕焼け少し残る時「太郎の屋根」に一番星降る 引き算をしても幸福残りたるわたしの人生まづは良好
春 秋	遠 山 功	春雪の光の中に浮かびたる桜が闇にとけて散りゆく 招待の老いのみふゆる運動会鳩ぽっぽはたったの九人 引き算しても 月 足 いつ子
帰るさと		帰りゆく吾れを気づかう母のあり曲りし背のいとおしく見ゆ 章さんを偲びて今年の螢かな静かに舞いて数も少なし

### 歌集「藤」第二集、さらに紹介

4月12日、昼前、黒木町の歌人仲間での歌集「藤」を持参、日向神ダム、トンネル前の大淵にお住まいの月足いつ子さんが来訪された。「y a」38号に紹介していたので、その礼状をもって見えられたのである。「花咲く春が名実共に訪れました。先日は自分史図書館だより「y a」に私達のつたない歌集を紹介して頂き、あまりにも思いがけなく会員一同感激致しました」とのよし。よろこんでいただければ編集者としても有難く嬉しい。月足さんのふるさとの山と語られる平野岳の眺望が眺

められる天窓舎に招じ、しばし月足いつ子さんより、黒木町歌人「藤」仲間の方々のお暮らしぶりを伺った。月足さんは、以前より町の学校、給食などのお仕事もされていたとお話だが、現在は家業の農、とくにスモモ栽培にいそしみながら、楽しく歌道ご精進とお話。前回は、5名5首のみの紹介であったので、改めてこの号に6人の方の作品を掲載し、黒木町「藤」歌人の活躍ぶりを見ていただくことにした。(椎窓猛)

### 受贈図書紹介 ㊦

順次紹介していますが受贈日より多少遅れます。  
あしからずご了承下さい。

心のうた	貞刈みどり	太宰府市
一攫千金の夢を实らせた男	杉原 保	H12. 3
句集 雲の旅	窪田 沙織	S62. 8
川筋医者	平塚 弘之	山田市

弓子の川	橋本勝三郎	東京都
暮れなずむ夕映え	富永 義昭	東京都
北の追憶	櫻田 正樹	東京都
卯月菜の花	江上 栄子	那珂川町
愛しくて	前岡多美子	奈良県
針尾に集ふ	浦岡 薫	福岡市



○鎮魂記 白菊連想  
菊池康夫

著者は1924年、東京の生まれ。東京物理学校卒業後海軍技術将校として、激動の昭和を生きぬかれた足跡を綴られた戦中自分史というべき内容。

表題の「白菊連想」とは、「天一号菊水作戦」の名のもとに、大和航空隊にくだった特攻命令によるもの。

作者は清楚な美しい植物の菊花ではなく、特攻沖縄の空へ・・・と悲惨な戦争末期に広がっていく言葉と追想されている。この書きだしに斉藤茂吉の歌が引用されている。

このくにの空を飛ぶとき  
悲しめよ  
南へむかふ雨夜かりがね



○古稀の歩み  
古賀哲也

昭和8年、宗像福岡生まれの著者は九州大学大学院卒業後県庁勤務、農政一筋に勤められたその足跡をまとめられた人生記録集。

私をもっとも心魅かれた回想文をあげたい。

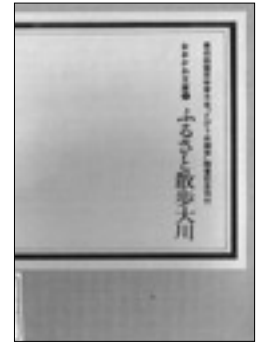
高千穂の大自然の美しさに魅せられてきたが、「景色のすばらしい農村ほど貧しい」という農学者の言葉が心を痛めてならない。それは高千穂も例外ではないからである。郷の山々の間に点在する農家の軒端につるしたトウモロコシの美しい色を、旅行者はグレコの絵の美を見るようだと言美するが、私はその中にかくされている貧困さが臉から去らない。市場から遠く離れた山村の農家は、わが国経済発展の道から大きくとり残されている。



○プラトニックラブ  
灰色の中の青春  
江頭静枝

帯に、—今だから書き綴れる60年前の回想—南の島に散った青年と箱入り娘のラブ・ストーリー。戦争中に生きた若者たちの純粋にして熱き恋心を描く—

「さあ、お別れだ」と手をさしのべた彼「泣かないネ」と言ひつつ頬にいくすじかの涙を光らせて握手した私彼の掌のぬくもりをひしひしと身を感じつつぐっとこみあげて来る悲しみを私はどうすることも出来なかった。—江頭さんは灰色の青春の中のプラトニックラブの悲哀が今の時代に理解出来るだろうか。でも私は「しみじみ、しあわせと思っ



○ふるさと散歩大川  
古賀政男

筑後川下流域に広がる大川市は、国民栄誉賞に輝く古賀政男先生のふるさとであり、歴史、伝統文化の香りただよ町である。また、全国に冠たる木工業を主軸に醸酒、織筵のまちであり、農産物や海と川の幸に恵まれた活気に満ちた町である。

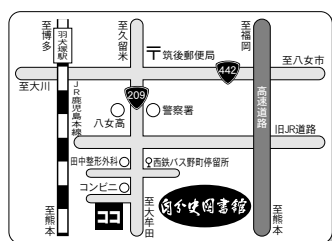
この本を手にしなが、ふるさと大川の歴史や文化を探訪していただいたら幸いであると、刊行のことば。

大川のエピソード集ともいえる内容で興味深い話がいっつも収録されている。またこの本のつくりが清楚で手がたい感触を持っている。「ふるさと散歩大川」との表題が内容とぴったりマッチしている。

編集掌記

▼自分史図書館だより「ya」も40号をつみかさねる。40号といえ、3年と4カ月の歳月を閲したことになる。紹介した本は何冊になるか、いちど数えてみたいと思いつながら、果せずにいる。印刷の東邦次郎氏の熱意あふれる支援、肝入れがなければ、40号までの継続は至難であつたと思う。自分史文化の定礎を用意してもらっていることの功績を、世のみなさんと共に讃えたい。そして

チョッピリ編集の椎さん、ご苦労さんと申したい。▼こんなことを書いたあとに、黒木町大淵居住の「藤」の歌人月足いつ子さんが、歌集紹介のお礼にわざわざおいでくださった。こんな嬉しいことはなかつた。山里で働ながら歌づくりの近況も



自分史図書館

入館無料  
開館 午前9時～午後5時  
閲覧希望の方は予め電話でご確認下さい。  
貸し出しはしていません。

〒833-0032 筑後市野町423-8 TEL・FAX 0942-53-8122  
西鉄バス野町停留所より徒歩5分  
インターネットでもご覧になれます。http://www.jibunshitosyokan

うかがえたが、そのうち月足さんの歌集が上梓される日を見ることを楽しみにしたい。▼おおかわ文庫をめぐって、熊本の文化振興に貢献の荒木精之氏の「若津郵便局」という作品は氏が十六歳のとき、ここで働いた体験によることを知った。(自分史図書館長 椎宥猛)